

日刊 發行編輯人 川崎文治 本社下町番地（電話六三〇番） 印刷所 常盤毎日印刷所



刊夕日一十二月九

定額 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓 零售每份五錢 廣告費 第一版每行五圓 第二三版每行三圓 電話六三〇番

**地方青年に望む**  
吉澤佐嘉英

然るに我が國現代の薄志、弱行の青年が主義の何たるをも又思想問題の研究も極めずして美麗なる宣傳のよろしきに迷ひ相等學識のある青年輩にさい、未だアルクスの一弟子を以て任てるものがある。青年諸兄よ此の状態を何と眺めるか、レニンの行へる革命の爲に二千萬人の人類は殺害されたと傳いられてあるではないか、此の政策の結果大饑饉は生じて二千万人は

餓えて死んだたことである。之れは古今未曾有の大犠牲であると稱せられてゐる。歐洲の大戦は五年以上續いた。而して佛人は百四十萬人を失ひ獨人は百六十萬人を失つたことである。これ惨事であるに相違はないが、而かもレニンの行へる革命に比すれば輕少な犠牲であつた。此の事實に對して日本の青年は如何なる感想を懐かれるのであらうか、現代の青年諸君よ血湧き肉躍るとき天を呑み地を敵ふの氣概を以てしつかりと自己を認識して奮進せらるべきである。

ムツソリニーは、フアスレオを卒つてソヴィエットの毒を飲み正に破亂を來たせんとする伊太利の赤化を救つたのであるが、此の爲に運動を續けること實に二ヶ年餘に及んでゐる。その間にムツソリニーの仲間の殺されしものは二千五百三十四人であつた。反對者の犠牲者数は不明であるがこの利を救つたのである。レニンの方では三千三百萬人を殺して更に露人を貧困に落らしめ野蠻に歸せしめたのである（つゞく）

**今秋流行のセーブルミネル**  
珍柄物豊富に着荷いたしました、是非御來觀御用の程を  
**三井吳服店**  
平町三丁目 電話三十八番

**不思議によく**  
養命酒  
横森醫學博士推奨  
一圓二圓  
**山野邊藥局**  
平町五丁目角

秋ガ訪レマシタ  
新型ノ中折帽・烏打帽  
子供帽モ澤山入荷シマシタ  
四丁目 ツルヤ

**外科一般**  
耳鼻咽喉科  
女性病科  
× 光線科  
**赤心堂病院**  
田町 電話四七五番

**洋食店讓り度し**  
平町目抜の場所、居抜きに  
格安御相談に應ず  
**姓名在社**  
人事信用資産一般調査探偵及代金取立  
興信日報發行・全國海外調査聯絡  
**帝國興信所**  
平通信部  
平町白銀町十五

**祖元支那料理**  
喜來軒  
近藤喜多治  
平町紺屋町（電五四五）  
女給二三名至急募集

**露披築増**  
**自轉車の音福**  
購入の便法あり  
エバエレスト（號乗心持）  
キヤビネット  
日掛けや月掛等の方法に依り望みに依つては現品を前渡し致します  
平町搔船小路  
自轉車及鹽野平支店  
附屬品店 鹽野平支店  
本店 東京市神田區末廣町一〇

**地所埋立請負**  
弊社南町裏ニ土砂運搬軌道敷設中ノ處今般竣工事業開始致候ニ付全方面一般ノ地所埋立請負仕候間多少ニ拘ハズ御用命相願候  
平町字四町目二番地  
**工業商會**

東の北  
花澤の餅  
花澤の良商店  
前駅平  
平町紺屋町（縣社通り）  
味の平食堂  
評判  
オの部電話四六〇番

**貸家廣告**  
一、停車場前旅館水道造作風呂附  
一、内郷村小島紳士向住宅八疊、六疊二間物置風呂場附一ヶ月金拾貳圓  
一、平劇場ワキ紳士向三間金十五圓  
一、同 勤人向金十圓  
一、同 同商店向金十圓  
一、同 勤人向金五圓  
一、同 同 同 同 同 同 同  
北白銀町同金八圓半  
**加藤營業所**  
白銀町 電話三三番

辛口  
**チキンソリス**  
甘口  
粉煙草  
乾物  
海老屋商店  
平町電話二三五番

内小科  
花柳科  
科柳病科  
（需應院入）  
平町紺屋町  
**藤沼醫院**  
電話五七〇番

豫て有名なる濱口熊嶽先生は十四日より平町平劇場に於て毎日午前六時より同九時迄四倉町は十六日より海盛座に於て毎日午前九時同十時二ヶ所掛持にて一般患者の施術の需に應じます（時間勵行）  
**濱口熊嶽師施術所**  
真正盛岡製南部鐵瓶  
御用ノ節ハ左ノ方法デ願ヒマス  
一、日掛金十錢ヅ、……………（金七圓以内ノ品ハ）  
一、日掛金廿錢ヅ、……………（金七圓以上ノ品ハ）  
▼ 月賦販賣モ致シマス  
**南部屋（吉田）**  
平町南町廿九番地

# 縣下の青年が 眞ツ黒になつて 猛練習を勵む

本縣聯合青年團體育大會は  
展報の如く九月二十四日午  
前八時から平町警城中學校  
グラウンドにて開催されるの  
で各郡の豫選も愈々終りを  
告げ

**出場選手** は今や必  
死の猛練習を續けてゐるが  
何れも晴れの舞臺に立たん  
どして意氣こんでゐるから  
定めし當日は非常なる賑ひ  
を呈するであらうと豫想さ  
れてゐる、出場選手は縣下  
各郡青年團選手約一萬人よ

**選抜され** てる三百  
五十名で各種競技出場の一  
郡の割當は  
三百米突——一名 四百  
米突——一名 千米突——  
一名 八百米突リレー  
——一名 四名 砲丸投  
——一名 走巾跳——一  
名 相撲——二名 劍道  
——二名 柔道——二名

で各種競技其のねられた  
妙技が見られる事であらう  
が、各郡のうちその覇を争  
ふべく見られてゐるものは  
河沼、信夫、安積、伊達の  
順序でその  
**諸郡青年** 團の何れ  
が優勝を得るであらうか  
と期待されてゐる、因に平  
町青年團幹部は本日午後七  
時から警城銀行に召集當日  
の土産袋を調製すると

## 植田町で 深作博士 講 演

來月二日に  
石城郡聯合青年團菊田方部  
總會は來月三日午前九時か  
ら植田町菊田小學校に於て  
開催するが當日は同方部出

**滿鮮の旅から**  
——(第一信)——  
車中にて 曾我直治

滿鮮視察の仲間入りをし  
て根本縣視學、佐藤相馬  
大野校長、高田西白信夫  
校長、矢部白河第一校訓  
導の諸氏と十八日午後九  
時東京を立ちました、滿  
洲地方コレラ流行の爲め  
豫防注射車中身体が少し  
く痛みます、富嶽の奇峰  
は白河夜船中を通り越し  
名古屋邊で日ざめ精養軒  
食堂の御定食に舌鼓を打  
ちました、とは須磨磨石  
の勝景を眺め前途の想像  
に耽りつゝ此れを書きま  
した(十九日正午)

## 泣かされる 自動車に 人力車組合員 寄々対策協議

身にして東大法學部經濟學  
科在學中なる金成増彦氏の  
盡力で深作博士が來植講演  
する筈である  
**自動車に**  
**泣かされる**  
平町の人力車營業者は近時  
激増した自動車に壓迫され  
た爲に移轉廢業者續出し漸

## 靈界の權威者 濱口熊嶽師を訪ふ

神か人が佛性であらうか  
それとも又魔性であらうか  
摩訶一大不思議な靈術者と  
して皆様の豫て御承知であ  
る濱口熊嶽さんは西洋でも  
「一東洋の神人だ」と非常な  
稱讃を博して殆んど世界全  
人類の視聽を惹いてゐる、  
靈界のオーソリティーですが  
今日まで其靈妙不可思議な  
秘術の眞髓を滿天下に發表  
しないで秘密にしてゐられ  
たので、荒唐無稽一種の香  
具師仲間であると世間から  
懷疑の眼で視られた爲めに  
色々な疑惑を産んで果ては

然し此麼峻烈な心づく  
を受けてもその内容に至つ  
ては依然として疑問であつ  
て、如何なる權威を持つて  
も秘密の鍵は得られなかつ  
たのです、斯うした慘苦は  
それだけでは止まなかつた  
のです。四顧一人の知己も

次減少を來し去る大正九年  
の好況時は百六十餘臺から  
あつたものが現在は約三分  
の一強の六十餘臺に過ぎず  
挽子一同は昨年も死活問題  
として赤津組合長から平署  
に陳情する處あつたが昨年  
度に較べ本年は自動車の數  
が更に數臺を増加し生活に  
一大脅威を受けるに至つた  
ので營業者は目下對策につ  
き協議中であるが之が緩和  
策とし賃銀の値上をなす時  
は現在より一層困難になる  
であらうからと名案も出ず  
困り抜いてゐる模様である

## 本日嚴かに 緑川 除幕式 小頭 大杉稻荷にて

既報故緑川平消防小頭胸像  
除幕式は本日午前十時から  
材木町大杉稻荷神社に於て  
舉行可憐なる嗣子の手に依  
つて除幕を爲し石坂副組頭  
の事業報告に次いで渡邊性  
源寺住職其他僧侶の讀經あ  
り井上組頭式辭を述べ伏見  
平町長、三森青年團長の來  
賓演説あつて遺族石山壽三  
郎氏謝辭を述べ一同順次に



松茸の料理  
松茸の蒸魚 自身の魚百  
平久、松茸湯、玉子一個煮出  
し汁七勺、味淋二勺、醤油二勺、  
食鹽少量の諸材料を集めま  
す。魚は五切れにして鹽をふ

## 青年訓練 指導員講習 警中に於て

石城郡下各町村青年訓練所  
指導員の講習會は來る廿五  
日午前八時から平町警城中  
學校において開催されるが  
講師は本縣中曾根社會教育  
主事、吉田主事、長島警中  
教官等であるが強導員が訓  
練所趣旨の履き違へから軍  
備の豫備訓練であるとの見  
解の下に往々教練にのみ重  
きを置き重要な公民教育  
を放棄するの傾向があるた  
めこの點に付いて講習會の  
開催をなし趣旨の徹底を期  
す目的の下に開かれるもの  
である

## 山林で屍体 心臓痲痺か

草薨翁が  
石城郡川前村大字上桶賣字  
五味澤佐久間春雄方雇人田  
村郡御館村生れ七海寅吉(五  
七)は十九日午前九時頃草薨  
りに出た儘歸宅しないので  
主家にては附近の山を搜索  
りかけて置き、松茸は摺り  
卸して玉子を混ぜ合せて置  
き、煮出し汁、味淋、醤油は  
沸騰させて割じたりを作つ  
て置きます、そうして魚を  
水洗ひにして布巾でふき竹  
の上のせて松茸を載せて  
せいろに入れ五分位蒸して  
取り出し、深皿に盛り側よ  
り割じたりを注ぎ入れます

## 一層深く進む 赤堀氏の藝術

平町出身の彫刻家赤堀信平  
氏は緑川小頭の胸像除幕式  
に參列の爲め昨日來平した  
が目下帝展出品物製作に忙  
しく今夜の急行にて歸京す  
ると同氏は語る  
「製作中の像は昨年の帝  
展に出品した「大地に立  
ちて」の姉妹篇とも云ふ  
べき「大地を進む」にて  
私の脳裡にわく藝術の泉  
を一層自然に向つて深く  
突き進ませたものであり  
ます」

## 平町人事

▲出生  
△立町一 柴山清一氏次男  
△新川町四 草野義雄氏長男天永  
△北目町九 渡邊義氏長男清吉  
▲死亡  
△杉平一 山崎誠(三三)  
△才地小路五 片寄典重(五二)  
△五丁目三 馬目トヲ(六二)

## 天氣 豫報 (日二廿) 曇り一時

▼燒松茸 笠の開かぬ松茸  
十本、半紙五枚、ゆず一個  
醤油五勺、味の素少量を用  
意致しまして松茸の石附き  
を削り半紙を濡らして包  
み、灰の中に埋めて焼くか  
短冊切りとして金網の上に  
のせて焼き上げゆずの汁を  
じぼり取り、醤油と味の素  
を混ぜた汁を注ぎます

てありません、又實地講  
習は何時でも教授致しま  
す  
——醉花生記——  
福島縣平町  
第一術所平劇場  
九月十四日より毎日無休  
午前六時より午前九時ま  
で(時間勵行)  
石城郡四ツ倉町  
第二術所海盛座  
九月十六日より毎日無休  
午前九時より午前十一時  
まで

ない雲山萬里を隔てたあの  
異境の空でも警察者や裁判  
所に拉致されたことは一再  
ではなかつたさうです。即  
ち米國で三回、佛國で一回  
露國ではモスコの監獄で  
呻吟して具さに縲紲の憂目  
を見たのであつたが其都度  
熊嶽さんはあの靈妙神秘的な  
摩訶不思議で日本でも亦外  
國でも同様通じて來られた  
のださうですそれで熊嶽さ  
んは次のやうに語つてをら  
れます

で、それまでにこの稀有  
獨特な靈術の眞髓を闡明  
にして全國に多數の弟子  
を拵へその衣鉢を傳へる  
目的である纖弱い女子供  
でも容易く術がでできる  
親切に教へてあります

「私は最早隻髪に兩三點  
の霜を加へ春秋既に高く  
なりましたがこれからま  
だ歐米各國を漫遊するの